

1. 弘前市の概要

1-1. 市の沿革（弘前のおいたち）	3
1-2. 地名「ひろさき」の由来.....	3
1-3. 位置と地勢	4
1-4. 人口と世帯数	4
1-5. 市民憲章・市章・市の花・市の木.....	4
1-6. 友好都市	5
1-7. 市職員数	5
1-8. 学校の状況	6
1-9. 認定こども園数	6
1-10. 保育所・へき地保育所・児童館数.....	6

1-1. 市の沿革（弘前のおいたち）

弘前のまちは、戦国時代の津軽氏の台頭にはじまります。

南部氏の一族、南部光信は延徳3年（1491年）に種里（現・鱒ヶ沢町）に入部し、文亀2年（1502年）に大浦城を築城しました。その後、為信の代になって津軽一円を領有し、津軽氏を称しました。

初代藩主となった為信は、文禄3年（1594年）に堀越城に本居を移しますが、京都で客死します。

その後2代藩主信枚（のぶひら）が、慶長16年（1611年）に弘前城を築き、城下町弘前が誕生しました。以後、明治維新までの約260年間、津軽地方の政治・経済・文化の中心として繁栄します。

12代藩主承昭（つぐあきら）のとき明治維新が起き、明治4年（1871年）7月、廃藩置県によって「弘前県」となりますが、9月には弘前県は青森県と改称され、県庁も弘前から青森へと移りました。

明治22年（1889年）4月に市町村制が実施され、全国30市とともに旧弘前市が、また、同じく旧相馬村が誕生しました。

明治27年（1894年）には弘前・青森間に鉄道が開通し、31年（1898年）に第八師団司令部が設置され軍都としての歩みを続け、大正10年（1921年）には官立弘前高等学校（現在の弘前大学）が開校しました。

弘前は、幸いにも戦災をまぬがれて終戦を迎え、昭和30・32年（1955・1957年）の市町村合併では、旧弘前市が周辺12町村と合併、昭和30年には当時の駒越村・大浦村・岩木村が合併し旧岩木村となり、その後、昭和36年（1961年）の町制施行で旧岩木町が誕生しました。さらに、平成18年2月27日、人口の減少や少子高齢化の進展、日常生活圏の拡大、行政ニーズの多様化・高度化、厳しい財政状況などの地方を取り巻く大きな環境の変化に対応し、これらの課題に的確に取り組み、住みよい地域社会を実現するため、弘前市、岩木町、相馬村の3市町村が合併し、新しいまち「弘前」が誕生しました。

現在まで約400年の歴史を歩む弘前のまちは、お城とさくらに代表される数々の文化遺産と、恵まれた自然環境を土台に文化都市として発展し、現在では、弘前大学をはじめとした4大学と2短期大学、9の高等学校を有する東北屈指の学園都市として成長を遂げる一方、りんごと米の田園都市、全国一のりんご生産圏としての地歩を築いています。

1-2. 地名「ひろさき」の由来

弘前は、以前「高岡」とか「鷹岡（鷹ヶ岡）」と呼ばれていたということです。これは、城地が高台にあることや、昔は鷹が営巣していたというところに由来があるようです。

高岡が弘前に改称された理由は、はっきりしていません。ひとつには、北海道への海上交通の要地で、その地勢が広大なところから「広崎」と呼び、それが「弘前」になったという説や、十三岬から松前までの海を「尾閼（びろ）」と呼び、十三岬を「尾閼ヶ崎」と呼んでいたのをとって「弘前」としたという説のほか、イギリス人チェンバレンが唱えたアイヌ語に起源があるという考え方などがありますが、いずれも明らかではありません。「信枚君一代之自記」には、「弘前」という名称が用いられたのは、寛永5年（1628年）の8月20日からと記録されています。

～『弘前市史 藩政編』より～

1-3. 位置と地勢

弘前市は、青森県の西南部に位置し、総面積 524.2 km²の内陸型地域です。


東に奥羽山脈の八甲田連峰を望み、西に「津軽富士」と呼ばれる青森県最高峰の岩木山を有し、南には、秋田県にまたがり世界遺産に登録されている白神山地が連なります。山々に囲まれた平野部においては、白神山地に源を発し、やがては十三湖を経て日本海に注ぐ県内最大の流域面積を持つ一級河川岩木川が、約 30 km におよび北流しています。この岩木川には平川、浅瀬石川が合流し、流域の肥沃で広大な津軽平野は県内屈指の穀物生産地域を形成しています。また、平野周辺部の小高い丘陵地帯には、県の基幹農産物であるりんごの約 4 割を生産する樹園地が広がり、更には、その樹園地を取り巻くように山林地帯が伸び、緑豊かな自然環境に恵まれた地域となっています。

位 置	広 ぼ う	面積・標高
東経：140 度 9 分～36 分 北緯：40 度 28 分～45 分	東西最長：37.6 km 南北最長：32.7 km	面積：524.20 km ² 標高：44.4 m（市役所所在地）

1-4. 人口と世帯数（令和 2 年 10 月 1 日国勢調査）

人 口	168,466 人	産 業 別 就 業 人 口	総数：82,826 人（分類不能、不詳を含む） ・ 第 1 次産業：10,917 人（13.8%） ・ 第 2 次産業：12,995 人（16.5%） ・ 第 3 次産業：54,926 人（69.7%）
世 帯 数	71,022 世帯		

1-5. 市民憲章・市章・市の花・市の木

市民憲章	岩木山（おやま）とお城に見守られ 春は 桜 夏は ねぷた 秋は りんご 冬は 雪 弘前 ひろさき あずましい ふるさと あふれる笑顔で 未来へ つなごう	平成 23 年の弘前城築城 400 年祭及び合併 5 周年を機に、市民のみなさまにふるさとに対する誇りと愛着心を持っていただき、より一層の一体感をはぐくむとともに、まちづくりに対する市民意識の高揚を図ることを目的に、平成 24 年 1 月 1 日に弘前市民憲章を制定しました。
市 章		卍（まんじ）は、藩政時代に津軽氏の旗印として用いられた由緒あるもので、功德・円満の意味で吉祥万徳の相を表すといわれ、明治 33 年 6 月から旧弘前市の市章として用いられてきましたが、再び市章として制定されました。
市 の 花	「さくら」	さくらは、弘前で日本一の春を演出し、さくらまつりには、全国から約 200 万人もの観光客が弘前を訪れます。
市 の 木	「りんご」	りんごは、健康と美容にも優れた効果があるといわれ、弘前では 16 万トン以上を収穫して全国の約 20%を占め、日本一の生産量を誇ります。

※ 平成 18 年 2 月 27 日の市町村合併に伴い、新たに市章、市の花、市の木が平成 18 年 11 月 15 日の合併記念式典において制定されました。

1-6. 友好都市

<p>北海道 斜里町</p>	<p>斜里町（しゃりちょう）は、北海道の北東部に位置し、秀峰斜里岳を仰ぎ、雄大なオホーツク海と世界自然遺産の知床を擁する東北海道を代表する観光地です。産業では、小麦などの畑作を中心とした農業、日本一の水揚げを誇る秋さけを中心とする漁業のまちです。</p> <p>文化4年（1807年）の弘前藩士の北方警備が縁となり、ねぶたまつりや物産などの交流事業を行ってきており、平成18年11月に友好都市提携の盟約を締結しています。</p>
<p>群馬県 太田市</p>	<p>太田市（おおたし）は、群馬県の東南部に位置し、金山や利根川、渡良瀬川などの自然に恵まれ、清和源氏新田氏の故郷であるとともに、徳川家発祥の地とされる歴史あるまちです。産業では、自動車産業を中心とした北関東を代表する工業都市です。</p> <p>慶長5年（1600年）の関ヶ原の合戦の功績により、津軽藩に与えられた領地が縁となり、ねぶたまつりや小・中学生の交流事業を行ってきており、平成18年11月に友好都市提携の盟約を締結しています。</p>

1-7. 市職員数（令和6年4月1日現在）

所 属	職員数	所 属	職員数	所 属	職員数
企画部	50人	商工部	24人	上下水道部	98人
総務部	75人	観光部	34人	議会事務局	12人
財務部	123人	建設部	129人	教育委員会	152人
市民生活部	120人	都市整備部	57人	選挙管理委員会事務局	6人
福祉部	122人	岩木総合支所	20人	監査委員事務局	6人
健康こども部	159人	相馬総合支所	17人	農業委員会事務局	14人
農林部	59人	会計課	11人		
総 数					1,288人

※ 会計課には会計管理者を含む。

※ 再任用職員（フルタイム・短時間）を含む。

1-8. 学校の状況（令和5年5月1日現在：学校一覧）

区分	学校数（校）				教員数 （人）	児童・生徒・学生数（人）		
	総数	国立	公立	私立		総数	男	女
幼稚園	10	1	0	9	84	449	227	222
小学校	33	1	32	0	574	7,032	3,702	3,330
中学校	19	1	16	2	384	3,872	1,943	1,929
高等学校	10	0	6	4	419	5,316	2,716	2,600
全日制	9	0	5	4	413	5,315	2,715	2,600
定時制	1	0	1	0	6	1	1	0
聾学校	1	0	1	0	17	9	6	3
養護学校	3	1	2	0	155	269	187	82
短期大学	2	0	0	2	45	421	137	284
大学	4	1	0	3	932	8,524	4,476	4,048
総数	82	5	57	20	2,610	25,892	13,394	12,498

※ 幼稚園は、幼稚園型認定こども園を含む。

※ 大学は、大学院を含み、放送大学を含まない。

区分	学校数 （校）	教員数 （人）	生徒数（人）		
			総数	男	女
専修学校	6	53	683	204	479
看護	2	24	379	65	314
和裁・洋裁	1	3	8	0	8
栄養	0	0	0	0	0
情報処理	1	7	167	114	53
介護福祉・保育	1	9	61	8	53
理容・美容	1	10	68	17	51
各種学校	2	2	5	3	2
情報処理	0	0	0	0	0
高校・大学受験	2	2	5	3	2

1-9. 認定こども園数（令和6年4月1日現在）

幼保連携型	幼稚園型	保育所型
30	3	4

※ 認定こども園数は、いずれも分園の数を含む。

1-10. 保育所・へき地保育所・児童館数（令和6年4月1日現在）

市立	私立	へき地保育所	児童館・児童センター
0	36	0	20

※ 保育所数は、いずれも分園の数を含む。